

と き

2025年 **11月15日(土)** 午後4時～6時

**参加費無料
事前申込不要**

(会場に直接
お越しください)

ところ

プラザホープ (和歌山市北出島1-5-47 電話073-425-3335)

阪神・淡路大震災から30年が経過した。ところで、次の南海トラフ地震に備えるためには、この30年間の防災や減災の取り組みを検証することに加えて、この30年間の社会動向や災害動向を捉えなおすことが欠かせない。まず、戦後50年の節目に起きた阪神・淡路大震災は、わが国の防災対策のあり方を根本から問い直すもので、「防災から減災へ」「行政主導から官民連携へ」「インフラ復興から人間復興へ」など、重要な課題と教訓を突き付けた。この課題が、この30年間の取り組みでどう解決されたのか、この教訓が、その後の災害でどう生かされたのかを、問い直したい。

次に、自然の強暴化と社会の脆弱化が急速に進み、災害の巨大化や多様化あるいは複合化が進んでおり、この災害の進化にどう応え、どう向き合うのかが、新たに問われている。「公衆衛生的な取り組みの強化」「新たな科学技術の積極的活用」「ブリッジ型コミュニティの形成」などの課題が、新たに突き付けられている。

さらなる防災の進化が無ければ、南海トラフ地震には対抗できない。さらに一步前に進まなければならない。その展望を見出したい。

テーマ

「南海トラフ地震にいかに備えるか ～阪神・淡路大震災からの教訓を踏まえて」

講師

むろ さき よし てる

室崎益輝先生

(神戸大学名誉教授・兵庫県立大学名誉教授)

<プロフィール>

1944年兵庫県生まれ。京都大学建築学科卒業。工学博士。神戸大学都市安全研究センター教授、独立行政法人消防研究所理事長、関西学院大学災害復興制度研究所長、兵庫県立大学減災復興政策研究科長などを経て、現職。日本火災学会会長、日本災害復興学会会長、地区防災計画学会会長、消防審議会会長、日本防災士会理事長、ひょうごボランティアプラザ所長、海外災害援助市民センター代表などを歴任。日本建築学会論文賞、日本火災学会賞、防災功労者内閣総理大臣表彰、神戸新聞平和賞、NHK放送文化賞などを受賞。著書に、「危険都市の証言」、「地域計画と防火」、「建築防災・安全」、「災害に向き合い人間に寄り添う」など。

